

# ちがさき丸ごと ふるさと発見博物館とは…



茅ヶ崎市全域を建物のない博物館と見立て、文化、歴史、自然、産業、商業、公共施設、人材等を幅広く抽出し(これらを都市資源と呼ぶことにしました)、調査・研究し、それぞれが有する意味や魅力を整理して広く周知する一方、相互に関連づけて活用を図る「茅ヶ崎のエコミュージアム事業」です。愛称は「ちがさき丸ごと博物館」です。

ちがさき丸ごとふるさと発見博物館の活動を通して、茅ヶ崎を知り、茅ヶ崎を好きになり、誇りに思う人が増えることは、まちの

活性化につながっていきます。

茅ヶ崎が大好きで、ふるさとへの愛着を持った人たちが、茅ヶ崎をエコミュージアムとして育てていくのです。

澄んだ空気に映えるえぼし岩、季節ごとに色を変える里山の自然、人のあたたかさ…、いつも近くにあるからこそ見落としてしまいがちな、ふるさと茅ヶ崎の都市資源と魅力、そして自分との「つながり」。

この活動を通して、たくさんの「つながり」を実感していただければ幸いです。

# エコミュージアムとは…



1960年代後半にフランスで始まった考え方です。住民と地域を関連づける文化的遺産等を対象として、それらを保護・保存し、調査・研究し、時には育てる機能をもった、地域環境そのものが博物館であるとする考え方であり、運営する者も利用する者も、地域住民であることを大きな特徴としています。住民が、自分たちの地域の未来のために、自分たちの考え方で運営していく姿勢を特に重要視しています。

従来の博物館と比較するなら、博物館が建物に収集品を展示する活動を行うのに対し、エコミュージアムはある一定の地域に点在する遺産や無形の記憶を対象とし、博物館内部の学芸員と公衆の役目を、エコミュージアムでは地域住民が担います。

(『ちがさき丸ごとふるさと発見博物館事業の指針』より)



## 従来の博物館とエコミュージアムの概念図

Rivard, René. 1984. Opening up the museum or Toward a new museology : ecomuseums and "open" museums をもとに作成

### 従来型の博物館 —建物—



### エコミュージアム —領域—

